

港区立御田小学校
令和4年度 授業改善推進プラン

1 本校における課題

| | |
|----|---|
| 国語 | 「書くこと」における、文章を構成する力や、記述する際に、適切な言葉を使ったり選んだりする力に、課題が見られた。読書に親しんだり、様々なジャンルの読み物に触れたりする機会が減っていることが、語彙力の課題につながっていると考える。読書に親しませるために、日常的な取り組みを行うとともに、学習計画に並行読書などを組み入れ、読書によって興味を広げる楽しさを味わわせる必要がある。また、「読むこと」においては、叙述や描写を基に捉える力に課題が見られた。特に、物語文において登場人物の心情や場面の様子を読み取り、自分の生き方を見つめ直したり、自分なりの考えをもったりすることが十分ではない。 |
| 社会 | 「知識・技能」における、資料を正しく読み取る力や「思考・判断・表現」における、社会的事象と自分の生活とを関係づけて考える力、人々の願いや思いを端的に表現する力に課題がある。表やグラフの正確な読み取りは算数で習得した力を生かすこととなるが、確実に身に付けられていないと考えられる。社会的事象に対して「なぜ」「どのように」といった疑問から、課題を見出すことや重要語句を身に付け活用して説明することが十分ではない。 |
| 算数 | 1、2学年では、計算の習熟に差がみられる。計算を速く・正確にできるだけでなく、計算の仕方を考えたり説明させたりし、思考力を育てていく必要がある。3～6学年では問題の題意を的確に捉え、考え方を自分の言葉で説明できる力を付けさせることが課題である。 |
| 理科 | 「思考力・判断力・表現力」が課題として挙げられる。実験方法を自分で考えたり、実験の結果を自分の言葉でまとめたり、伝え合ったりする機会が少ないことが要因の一つとして考えられる。また、実験器具を扱う活動が少なく、正しい器具の扱い方が身に付いていない。差異点や共通点を基に、問題を見出すことが難しいと感じる児童が多い。 |

2 各教科の具体的な授業改善

| | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|---|---|
| 国語 | <p>国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力</p> <p>(1)日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。</p> <p>(2)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</p> <p>(3)言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・言語の特質を理解し、適切に使うことができるようにするために、既習の漢字や語句を用いて文章を書く機会を増やすなど、インプットしたことをアウトプットする学習の流れを繰り返し、継続的に指導を行う。また、日常的に日記や作文指導を取り入れる。「書くこと」の学習では、構成メモを用いながら伝えたい内容に合った文章の書き方の指導を行う。 ・伝え合う力を高めるために、「書くこと」の学習と連携させ、順序立てて話したいことを考えさせたり、話型の指導を行ったりする。 ・言葉がもつよさを認識するために「書くこと」の学習では、題材の工夫を行ったり、児童に相手意識をもたせたりするなど、目的をもって書かせることができるような指導を行う。 ・言葉がもつよさを認識するために「読むこと」の学習では、様々な文章に親しむ機会を増やせるよう、学校図書館・地域の図書館と連携して図書資料の活用や読書活動を充実させる。また、日常的に読書に親しむことができるように読んだ本を記録させたり、自分の読んだことのないジャンルの本にも触れるよう指導したりして意欲付けを行う。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|---|--|
| 社会 | <p>社会的な見方・考え方を働かせ、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力</p> <p>(1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。</p> <p>社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取り方については、見方を教えたり積み重ねたりするなどの丁寧な指導をする。学習資料については、プリントだけでなくICT活用においても、学年の発達段階に合わせて適切に精選する。また、算数科と関連させたカリキュラムマネジメントを推進する。 地図や表を適切に読み取るとともに、その理由や人々の生活との関連性を調べ、自分の言葉で表現する機会を意図的に増やしていく。そのために、新聞・ポスター・リーフレットなどの単元の終末の活動を工夫し、児童が見通しをもって単元の学習を進められるように指導する。 社会的事象を自分の生活と関連させたり、歴史上の人物の思いや願いを自分だったらという視点をもちつつ想像したりして考えをもたせるとともに、考えたことを児童が互いに伝え合う活動を充実させる。その際には、知り得た情報を根拠に示して、重要語句を適切に活用しながら伝え合うことを意識できるように指導する。また、社会的事象を身近にとらえたり考えを広げたりすることができるよう、実物や写真、動画などの視覚的に捉えやすい資料を活用するなどして導入を中心に授業展開を工夫する。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|--|---|
| 算数 | <p>数学的な見方・考え方を基に算数的活動を通して、数学的に考える資質・能力</p> <p>(1) 数量や図形について基礎・基本の概念、性質を理解し、日常の事象を数理的に処理する技能</p> <p>(2) 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち、筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質を見出し、統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・適格に表現したり目的に応じて柔軟に表したりする力（思考力・判断力・表現力等の育成）</p> <p>算数的活動の楽しさや算数のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題を解決しようとする態度、学習したことを生活や学習に活用しようとする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に応じ、具体物、半具体物、ヒントカードなどの教材を工夫する。事象をイメージしやすくすることで理解の支援とする。 課題解決の場面では、まず解決のための方法を考えさせる。自力解決を通し、自分が選んだ方法がどうだったか自己評価をさせる。また課題を理解したり、「なぜそうなるのか」理由を説明したりするために、図や表、具体物を用いて説明する。また考えはノート、タブレット端末にまとめるようにし、友達の考えと比較しながら説明できるようにする。 自力解決中には机間指導を行い、児童の考えを見取る。児童の頑張りをほめたり、助言をしたりするなどの支援をする。 授業の振り返りでは、学んだことや分かったこと等、視点を例示し、めあてにそった振り返りができるように指導する。振り返りを充実させることで学習したことを生活の中で活用し、具体的な場面を想定して課題解決できるようにする。 体験的な学習(長さ・かさ)の充実を図り、量感の育成や日常生活から算数に興味をもとうとする姿勢を育てる。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|--|---|
| 理科 | <p>自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。</p> <p>自然を愛する心情や主体的に問題解決をしようとする態度を養う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が見通しをもって観察、実験をするために、興味をもたせる導入を展開し、予想仮説を立てさせる。その際に、学年の発達段階に合った導入を行い、違いや共通点に注目させるようにする。 ・実験結果→考察→結論を自分の言葉で表現させるようにし、理解を深めたり、実生活と結び付けて考えたりできるようにする。 ・動植物の観察では、観察の視点をもたせ、継続的に取り組むことで、生き物の成長の喜びや不思議さ面白さを実感させるようにする。 ・実験した結果を全体で共有したり、結果から分かることを自分の言葉で伝え合ったりする場面を作り、さらに考えを深められるようにする。 ・よりよい実験を行うために、実験をする際に必要な条件を考えさせ、理解したうえで道具を使用し、学習活動が充実できるようにする。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|--|--|
| 生活 | <p>具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力</p> <p>(1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。</p> <p>身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・双方向性のある活動や多様な体験(見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど)をさせる。 ・活動の楽しさや気付いたことなどを言葉、絵、動作、劇化など多様な方法で表現させる。 ・年間を通して、1・2年生の交流を計画的に行い、友達や異学年との関わりを通して、意欲や自信を高められるようにする。 ・校外学習を行ったりゲストティーチャーを招いたりして、地域について学ぶことや、生き物と触れ合ったり植物を育てたりして、地域に愛着をもち自然を大切にすることができるようにする。 ・植物の観察では、葉の形や手触り等、様々な表現があることを児童に教え、その中から選んでもよいし、自分で考えてもよいことを伝え、表現を工夫できるようにする。 ・動植物の観察では、観察の視点をもたせ、継続的に取り組むことで、生き物の変化や成長の喜びを実感できるようにする。 ・単元のめあてを明確にし、それを基に振り返り、次の学習につなげることで、児童が意欲をもって学習に取り組めるようにする。 ・児童の実態や活動内容に応じて、ペアやグループでの学びの場を設定する。 ・家庭と連携することで、より愛着をもって植物を育てたり、家庭生活の中で自分の役割を果たしたりできるようにする。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|---|---|
| 音楽 | <p>音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについての理解、表したい音楽表現をするために必要な技能(知識・及び技能)の習得</p> <p>(2) 音楽表現を工夫すること、音楽を味わって聴くこと(思考力・判断力・表現力等の育成)</p> <p>音楽を愛好する心情と音楽に対する感性、音楽に親しむ態度、豊かな情操の育成(学びに向かう力、人間性等の涵養)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活用しながら6年間の学びがつながるように、見通しをもった指導計画を作成する。 ・個人、ペア、グループ、全体の様々な形態で、自他のよさを見付けながら学習を進める活動の時間を多く確保する。 ・本物の楽器を見たり、聴いたり、演奏したりする機会を取り入れる。 ・活動を記録して振り返ったり、範唱や範奏を聴いたり、資料を掲示したり、音楽を深く学ぶためにICT機器を効果的に活用する。 ・既習事項を用いた対話を促し、知識の定着を図る。 ・共通事項を軸において、歌唱、器楽、鑑賞、音楽づくりを関連させながら、曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解を深め、学んだことを表現に生かせるように指導する。 ・主体的に表現や鑑賞の実体験を積むことで音楽活動の楽しさを経験し、友達と一緒に演奏する喜びや多様な表現に触れる体験を積み重ねることで、一層豊かな情操を培うようにする。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|--|---|
| 図工 | <p>造形的な見方・考え方を働かせ、社会や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力</p> <p>(1)形や色の様子を理解し、材料や用具を活用して、創造的につくったり表したりしている。(知識・技能)</p> <p>(2)形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、表したいことや表し方について考えている。(思考・判断・表現)</p> <p>(3)つくりだす喜びを味わい、主体的に表現・鑑賞の活動に取り組もうとしている。(学びに向かう力、人間性)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・平面・立体・共同制作・鑑賞などの学習活動をバランスよく取り入れる。1年生から6年生までの学習活動を通して教科横断的な要素を取り入れながら、指導や支援を行う。また、年間指導計画の作成、及び感染症拡大の可能性を考えた臨機応変な学習活動の変更などを行う。 ・(知)形や色の様子を理解するために、タブレット端末を活用した授業展開、互いの作品から良いところを学ぶなどの相互理解を深める。 ・(技)発達段階に合わせた基礎基本をおさえ材料や用具を使った表現方法を取り入れた学習活動を行う。 ・(思)自分のイメージを広げるために、タブレット端末を活用し表したいことを調べたり(調べ学習)、教師がイメージマップを板書したりするなど個や全体に応じた指導や支援を行う。 ・(判)形や色などを基にイメージを膨らませたものを、児童が発達段階に応じた表したい素材や描画材などを、選んだり、選んだものを児童の判断で工夫したりして表し方を工夫できる場の設定をする。 ・(表)児童にとって、新しいものやことなどをつくりだすために、動画の視聴や書画カメラでの実演を行う。 ・(主)つくりだす喜びを味わうために、五感を働かせながら、友達の作品のよさや、出前授業を通じた体験の充実を図る。 ・(鑑)形や色などの造形的な特徴を理解するために、友達の作品の良さや社会の中で見るデザインの良さを通し、自分の見方や感じ方を深められるように、児童相互の鑑賞の機会を設ける。また、校外学習などで体験する建物や表示のデザインの工夫について理解し意味を感じ取れるようにする。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|---|---|
| 家庭 | <p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力</p> <p>(1)家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。(知識及び技能)</p> <p>(2)日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)</p> <p>(3)家庭生活を大切にしている心情を育み、家族や地域の人々とのかかわりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な学びを促すために、2年間の学習の見通しを持った指導計画を作成する。 ・技能の習得状況に応じた少人数指導や教材・教具の工夫など、個に応じた指導の充実を図る。 ・積極的に地域コーディネーター活用し、個々への細かい支援ができるようにする。 ・ICT機器等を活用し可視化することで複雑な工程を理解しやすくする。 ・調理や製作等の手順の根拠を考えたり、調理道具の安全な使い方や衛生について考えたりするなど、実践的・体験的な活動を充実させる。 ・身に付けた知識及び技能などをより確かなものにし、日常生活に活用できるようにするために、家庭や地域との連携を図り、実習の機会を増やす。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|--|---|
| 体育 | <p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習課程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力</p> <p>(1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT の活用(写真、図、動画等)で、技のポイントや動きのイメージを捉えたり、自分の動きの比較をしたりしながら運動できるようにする。 ・友達と共に楽しむことができるよう、教師からの賞賛を多くしたり、ルール、チーム編成など工夫したりする。 ・補助運動を取り入れ、その時間の運動の動きにつなげたり、理解を深めたりしながら運動できるようにする。 ・たくさんの運動に触れさせる。 ・身に付けさせたい動きを提示したり、運動遊びを工夫したりしながらめあてをもって運動に取り組むようにする。 ・学習カードを使い、技能のポイントを確認したり、自己の変化や成長を可視化させたりできるようにする。 ・運動が苦手な児童も前向きに取り組めるよう、スモールステップで授業を計画する。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|--|---|
| 国際 | <p>外国語活動(第1～4学年) 外国語によるコミュニケーションにおける見方、考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質、能力の育成。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 外国語を通して、言語や文化について、体験的に理解を深め、外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。 (2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。 (3) 外国語を通して、言語野その背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 <p>外国語科(第5、6学年) 外国語によるコミュニケーションにおける見方、考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質、能力の育成。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、4技能による実際のコミュニケーションにおいて、活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測して読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基本的な力を養う。 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・4技能「聞く・話す・書く・読む」に偏りがないよう、毎時間の授業構成の工夫を図る。 ・音声を中心とした学習活動を行っていく。低学年ではアルファベット、簡単な固有名詞の発音をネイティブティーチャーの音声、視聴覚教材を活用しながら「聞く」活動、音声に慣れる活動(歌やリズム、チャンツ)を重点的に指導する。高学年では音声から文字化(簡単な単語の書き取り、簡単な英語の文章の作文)へ進め、中学校英語に向けての橋渡しとなる活動を行う。 ・各単元、毎時間の学習のゴールやめあてを児童に確実に伝えることで、児童が見通しをもって学習にと取り組めるようにする。また、NT の話す言葉に興味をもてるように、児童にとって身近な話題でのやりとりをスモールトークなどに取り入れる。また、児童が外国の文化に興味をもてるよう教材を工夫する。 ・児童が学習した、英語表現を使う機会を多く設定し、「話す」経験を豊かにする。 ・活動を楽しめるよう、発音等に自信の持てない児童を中心に、ネイティブティーチャーと連携を図りながらチームティーチングの良さを積極的に生かして個に応じた指導を行っていく。日本語による解説、説明を適宜行うことで、児童が内容を理解して、学習に取り組めるよう配慮する。 ・ICT を効果的に活用する。 ・各単元のねらい、目標に沿った活動を行うことができるように、事前に担任とネイティブティーチャーで授業の単元計画について連絡を密にとり、効果的な授業を実施できるようにする。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|---|---|
| 道徳 | 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考える学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいに迫るための発問の精選、補助発問等、児童の実態を踏まえて授業を計画する。 ・発達段階に応じた教材提示を行うことで、児童が教材の世界に入り、登場人物に共感して気持ちを考えることができるようにする。(紙芝居形式、ICT機器の活用、ペープサート、パネルシアター形式など) ・「道徳ノート」やワークシートに自分の考えや思いを書く時間などを取り、日常生活と関連させて自己を見つめる時間を確保する。 ・ペアやトリオでの話し合い、役割演技などの時間を確保し、自分の考えを広げたり、深めたりできるようにする。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|------|--|---|
| 特別活動 | 望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動において、よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめ、まとめた意見について児童相互に話し合うことや、自分たちでルールを決めるなどの学習活動を通して人間関係を形成する力を培う。 ・係活動では、楽しく活動できるように、時間、発表方法など助言する。学級会では学級会ノート、役割分担等指導し、自分達で進行できるように助言・指導する。 ・活動の振り返りの時間を充実させ、自分達で改善していけるように支援する。 ・異学年集団によるクラブ活動や委員会活動では、児童主体で取り組めるよう、具体的な活動例を教師が示したり、指導したりして、児童の思いや願いを実現できるように支援する。 ・たてわり班活動など、学校全体に関わる活動では、他学年の児童と交流する中で、学校の行事を知り、望ましい人間関係を形成できるように指導する。 ・自然の中での集団宿泊体験や文化や芸術に親しむ体験を通して、望ましい人間関係、自律的態度、心身の健康、協力、責任などの道徳性の育成を図る。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|-----------|--|--|
| 総合的な学習の時間 | <p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力</p> <p>(1) 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解する。</p> <p>(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する。</p> <p>探究的な学習に主体的・共同的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の全体指導計画をもとに、発達段階に応じた指導を展開していく。 ・関心をもたせるための授業展開の工夫をし、他教科と関連させた内容にする。 ・課題の発見、調査・分析、まとめ、発表のサイクルを意識した計画を立てる。 ・ICTや図書資料の活用の仕方を指導し、情報の収集・分析・取捨選択ができるようにする。 ・調べる学習でゲストティーチャーを活用したり体験的な活動にしたりするなど、児童の思考に深まりを与える機会を設ける。 ・自己変容を自覚するために振り返りの場面を設定し、自らの学びを位置付けたり価値づけたりする。 |